

HP Universal CMDB

ソフトウェアバージョン:10.10

HP UCMDB 10.10 リリース・ノート

ドキュメントリリース日: 2013 年 11月

ソフトウェアリリース日: 2013 年 11月



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2002 - 2013 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe®は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft®およびWindows®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。 <http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

または、HP Passport のログインページの [New users - please register] リンクをクリックします。

適切な製品 サポート サービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。 <http://support.openview.hp.com>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLは<http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>です。

目次

目次	3
HP UCMDB および HP Configuration Manager リリース・ノート	4
HP Universal CMDB 10.10 ファイル/コンポーネント	4
システム要件	5
HP UCMDB および HP Configuration Manager のデプロイメント・ガイド	5
アダプタのアップグレード	6
ディスカバリ・ナレッジ・コンテンツ	6
注意事項および制限事項	7
UCMDB ライセンス	7
UCMDB のインストール	7
UCMDB のアップグレード	9
UCMDB 10.01 の UCMDB 10.10 へのアップグレード	10
Configuration Manager のアップグレード	10
HP UCMDB	11
Configuration Manager	14
コンテンツ・パック	18
モデリング	19
Universal Discovery	20
インテグレーション	22
連携	24
レポート	24
LW-SSO	24
LDAP	25
多言語サポート	25
修正された UCMDB 10.10 の欠陥	27
修正された Content Pack 13.00 の欠陥	29

HP UCMDB および HP Configuration Manager リリース・ノート

このドキュメントは、HP Universal CMDB(UCMDB)バージョン 10.10、HP UCMDB Universal Discovery Content Pack 13.0、および HP Configuration Manager バージョン 10.10 についての情報を提供するものです。

HP Universal CMDB 10.10 ファイル/コンポーネント

HP UCMDB 10.10 には、次のファイル/コンポーネントが含まれています。

	含まれるファイル
Windows	<ul style="list-style-type: none"> ● HPUCMDB_Server_10.10.exe :Windows プラットフォーム用のバージョン 10.10 HP UCMDB Server のインストールを開始します。 ● HPUCMDB_DataFlowProbe_10.10.exe :Windows プラットフォーム用のバージョン 10.10 HP Universal Discovery Data Flow Probe のインストールを開始します。 <p>このインストーラは、スタンドアロン・インストールにおいて Universal Discovery インベントリ・ツールをインストールするためにも使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● HPCM_10.10.exe :Windows プラットフォーム用のバージョン 10.10 HP UCMDB Configuration Manager のインストールを開始します。
Linux	<ul style="list-style-type: none"> ● HPUCMDB_Server_10.10.bin :Linux プラットフォーム用のバージョン 10.10 HP UCMDB Server のインストールを開始します。 ● HPUCMDB_DataFlowProbe_10.10Linux.bin :Linux プラットフォーム用のバージョン 10.10 HP Universal Discovery Data Flow Probe のインストールを開始します(統合用のみ)。 ● HPCM_10.10.bin :Linux プラットフォーム用のバージョン 10.10 HP UCMDB Configuration Manager のインストールを開始します。

	含まれるファイル
共通	<ul style="list-style-type: none"> ● Deployment_Guide : 起動ファイルを含む対話式の『デプロイメント・ガイド』のファイルが含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Launch_Deployment_Guide.htm ■ 強化ガイド(HardeningGuide.pdf) ■ Upgrader Reference(Upgraders.pdf) ■ データベース・ガイド(DatabaseGuide.pdf) ● サポート・マトリクス(SupportMatrix.pdf) ● リリース・ノート(release_notes.pdf) ● 新機能(whatsnew.html) ● Product_Feature_Movies : UCMDB 10.10 の新しいムービーを含む UCMDB 機能紹介ムービーが含まれます。 movies.html をダブルクリックすると、各ムービーの短い説明が表示されます。 ● End_to_End_Scenarios : HP UCMDB を他の HP 製品とともに使用する一般的なサンプル・ワークフローが含まれます。

注: UCMDB バージョン 10.10には、HP UCMDB Universal Discovery Content Pack 13.0および UCMDB Browser 3.00 が備わっています。

システム要件

システム要件のリストについては、HP Universal CMDB インストール・メディアのルート・フォルダにある『HP Universal CMDB サポート・マトリクス』ドキュメントを参照してください。

注: 埋め込み PostgreSQL は、UCMDB のエンタープライズ・デプロイメントではサポートされていません。

HP UCMDB および HP Configuration Manager のデプロイメント・ガイド

HP UCMDB インストーラは、物理メディアまたは電子メディアで入手可能です。

1. デプロイメントで参照する手順用に、インタラクティブ形式の『HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド』(**Deployment_Guide\Launch_Deployment_Guide.htm**)を起動します。

注: Google Chrome アップデートのバージョン 30.0.1599.69 において、対話式の『HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド』を開くことができない問題が発生しています。このガイドを開く場合は、Google Chrome 以外のブラウザ(Internet Explorer, Mozilla Firefox など)を使用してください。

2. インタラクティブ形式のドキュメントで、該当する製品セットを選択して、デプロイメント・オプションを選択します。
3. カスタマイズされたデプロイメント・ガイドを表示するには[ビュー]ボタンを、印刷するには[印刷]ボタンをクリックします。

注: コンピュータにインストールされた PDF 印刷ドライバがある場合は、[印刷]をクリックして、選択内容に応じてカスタマイズされた PDF ドキュメントを作成します。PDF 印刷ドライバはいくつかのオープン・ソースおよびサード・パーティ・プロバイダから提供されています。

アダプタのアップグレード

定義済みのすべてのアダプタ:以前のバージョンでアダプタ構成を変更した場合、そのバージョンからのすべてのアダプタ・ファイルを保存して、バージョン 10.10 のアダプタ・ファイルの変更をやり直すことを強くお勧めします。

ディスカバリ・ナレッジ・コンテンツ

ディスカバリ・ルール・コンテンツ・ファイルおよびソフトウェア・アプリケーション・インデックス(SAI)コンテンツ・ファイルを含むディスカバリ・ナレッジ・コンテンツの更新は、Hewlett-Packard から定期的リリースされます。HP ディスカバリおよび依存関係マッピング・インベントリ・コンテンツの更新に含まれていたすべてのコンテンツ更新は、Universal Discovery にも含まれています。

ディスカバリ・ルールには、お使いの環境のハードウェア・デバイスを識別する情報が含まれています。ディスカバリ・ルールにより、デバイスのオペレーティング・システム、アプリケーション、デバイス・ファミリー、モデルが決定されます。そして、ディスカバリ・ルール・エンジンはお使いのデバイス・モデルにデバイス・タイプを割り当てます。

SAI ファイルには、ディスカバリ・ノード上のアプリケーションを識別する情報が格納されています。Universal Discovery では、ファイルベースの認識機能、バージョン・データ、インストール済みパッケージ・ルールベースの認識機能といった多くのインストール済みソフトウェア・アプリケーション認識技術が採用されています。この認識に必要なデータは、アプリケーション・ライブラリ・ファイル(SAI)に格納されています。

最近リリースされたコンテンツで、このバージョンの Universal Discovery に現在含まれているものは、HP ライブ・ネットワーク内の Universal Discovery コミュニティ (<https://hpln.hp.com/group/universal-discovery/>) (英語サイト) の Web サイトで確認できます。

注: このサイトにログインするには HP Passport のユーザ名とパスワードが必要です。

注意事項および制限事項

UCMDB ライセンス	7
UCMDB のインストール	7
UCMDB のアップグレード	9
UCMDB 10.01 の UCMDB 10.10 へのアップグレード	10
Configuration Manager のアップグレード	10
HP UCMDB	11
Configuration Manager	14
コンテンツ・パック	18
モデリング	19
Universal Discovery	20
インテグレーション	22
連携	24
レポート	24
LW-SSO	24
LDAP	25
多言語サポート	25

UCMDB ライセンス

このインストールには、HP Instant-On ライセンスが同梱されています。このライセンスによって、フル機能を備え、サポート契約外での 21 日にわたる非実運用環境での使用に対応したすべての製品 (Universal Discovery, Universal CMDB, UCMDB Configuration Manager, および UCMDB Browser) の使用が許可されます。アクティベーション手順は不要です。HP Instant-On ライセンスの期限が切れると、ユーザは JMX コンソール以外のユーザ・インタフェースにアクセスできなくなります。管理者は JMX コンソールを使用してライセンスを更新できます。期限付きまたは永続的ライセンスが同一の UCMDB サーバに適用される場合、そのライセンスは Instant-On ライセンスに優先されます。

UCMDB のインストール

- Google Chrome アップデートのバージョン 30.0.1599.69 において、対話式の『HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド』を開くことができない問題が発生しています。このガイドを開く場合は、Google Chrome 以外のブラウザ (Internet Explorer, Mozilla Firefox など) を使用してください。
- インストール時にはユーザのデフォルト設定パスワードを変更できません (システム管理者や統合ユーザなど)。JMX コンソールを使用してパスワードを変更してください。

- UCMDB のインストール時に PostgreSQL データベースで UCMDB サーバを構成しないよう選択した場合は、PostgreSQL データベースを初期化して、次の手順に従ってデータベース・サービスを作成できます。

注: PostgreSQL データベースの初期化とデータベース・サービスの作成は、埋め込み PostgreSQL を Oracle / MSSQL の代替として使用する場合にのみ必要な手順です。埋め込み PostgreSQL の使用は必須ではありません。UCMDB サーバは埋め込み PostgreSQL なしでも動作します。

Windows の場合:

注: 次の手順で、`C:\hp\UCMDB\UCMDBServer\` を適切なパスで置き換えます。

- Microsoft の Web サイトから `vcredist_x64.exe` をダウンロード、インストールします。
- 次を実行します。`C:\hp\UCMDB\UCMDBServer\PostgreSQL\pgInitDb.bat username password port`
ユーザ名、パスワード、およびポートは、ユーザが選択したものでなければなりません。ポートが空いていることを確認します。
- 次を実行します。
`C:\hp\UCMDB\UCMDBServer\PostgreSQL\pgsql\bin\pg_ctl.exe register -N UCMDB_Server_DB -D "C:\hp\UCMDB\UCMDBServer\PostgreSQL\pgsql\data"`。
- 次を実行します。`sc description UCMDB_Server_DB "HP UCMDB Database"`。
- 次を実行します。`net start UCMDB_Local_DB`。
- 設定ウィザードを実行して、上記からユーザ名、パスワード、およびポートを設定します。

Linux の場合:

注: 次の手順で、`/opt/hp/UCMDB/UCMDBServer/` を適切なパスで置き換えます。

- 次を実行します。`find /opt/hp/UCMDB/UCMDBServer/PostgreSQL -type f \(-name "*.sh" -or -name "*.sql" -or -name "*.conf" -or -name "*.cnf" \) -exec dos2unix {} \;`
- 次を使用して、`postgres_server` グループを作成します。`/usr/sbin/groupadd -f postgres_server`
- 次を使用して、`postgres_server` ユーザを作成します。`/usr/sbin/useradd -r -g postgres_server postgres_server`
- 次を実行します。`rpm -qa | grep -ic postgres`

注: システムに postgres RPM パッケージのその他のバージョンがインストールされている場合、競合が生じる可能性があるため、それらを削除することをお勧めします。

- e. 次を実行します。

```
cd /opt/hp/UCMDB/UCMDBServer/PostgreSQL
```

```
chmod -R 770 .
```

```
chown -R postgres_server .
```

```
chgrp -R postgres_server .
```

- f. 次を実行します。runuser -l postgres_server -c "/opt/hp/UCMDB/UCMDBServer/PostgreSQL/pgInitDB.sh username password port"

ユーザ名、パスワード、およびポートは、ユーザが選択したものでなければなりません。ポートが空いていることを確認します。

- g. /opt/hp/UCMDB/UCMDBServer/PostgreSQL/pgsql/postgresql.server を編集して、文字列 `_install_dir_` を、インストール・フォルダへのパスで置き換えます (/opt/hp/UCMDB/UCMDBServer/ など)。

- h. 次を実行します。

```
cd /opt/hp/UCMDB/UCMDBServer/PostgreSQL/pgsql
```

```
chmod a+rx ./postgresql.server
```

- i. /opt/hp/UCMDB/UCMDBServer/PostgreSQL/pgsql/postgresql.server を /etc/init.d/ にコピーして、postgresql_server に名前を変更します。

- j. 次を実行します。

```
chkconfig --add postgresql_server
```

```
/sbin/service postgresql_server start
```

- k. 設定ウィザードを実行して、上記からユーザ名、パスワード、およびポートを設定します。

UCMDB のアップグレード

- バージョン 10.10 へのアップグレード時には、履歴保存のために定義された期間よりも古いすべてのスナップショット(インフラストラクチャ設定 [保存履歴月数(過去)], デフォルト設定値 :3 か月) が削除されます。こうしたスナップショットに基づくすべてのカスタム・レポートは空になります。
- 旧バージョンの UCMDB の CI タイプを変更した後でバージョン 10.10 にアップグレードする際は、当

該タイプまたは IT ユニバース・マネージャにおけるその子孫からの CI のショートカット・メニューから一部新しい機能が欠落する可能性があります。この場合、当該 CI タイプのアタッチ・メニューを編集し欠落している機能を追加してください。

- 9.x から 10.10 へのアップグレード時には、削除されたユーザのユーザ・プリファレンスが削除されません。ログに警告が表示され、アップグレードが正常に完了します。
- アップグレード中、ディスカバリ・モジュール CIT のパス属性で **UNIQUE_INDEX** 違反例外が発生する可能性があります。旧バージョンのカラムには重複が生じることがありましたが、新しいバージョンのカラムには **UNIQUE_INDEX** 修飾子があります。このメッセージは、重複があったこと、および修飾子が追加されていないことを意味します。
- UCMDB 10.10 がサポートする最小のコンテンツ・パック・バージョンは Content Pack 13.00 であり、これは UCMDB 10.10 とともに自動でインストールされます。

注: Content Pack 9.01 からは、すべての Jython ベース統合がディスカバリ・コントロール・パネルから Integration Studio に移動しています。Content Pack 13.00 とともに UCMDB 10.10 をインストールしている間にこれらの統合ジョブのいずれかがアクティブである場合、アダプタは統合アダプタに変わらず、統合はディスカバリ・コントロール・パネルから引き続き稼働します。

UCMDB 10.01 の UCMDB 10.10 へのアップグレード

- UCMDB 10.01 から UCMDB 10.10 にアップグレードすると、UCMDB 10.01 のアクティビティに定義された一部のアクティビティ・ジョブは、バージョン 10.10 のユーザ・インタフェースに表示されません。これらのジョブはアクティビティ内に引き続き定義されますが、定義をユーザ・インタフェースで表示するには、バージョン 10.01 で選択したジョブを再度選択する必要があります(この設定は任意ですが、推奨されます)。

このタスクを実行するには、次の手順を実行することが推奨されます。

- アップグレードを実行する前に、インベントリ、データベース、JavaEE、メッセージ・キュー、SAP、およびクラウド・ディスカバリ・アクティビティのサマリを、各管理ゾーンに記録します。この作業は、アクティビティの[サマリ]ページのテキストをコピーするか、各該当アクティビティの[サマリ]ページのスクリーン・ショットをとることによって実行できます。
 - アップグレード後に、各アクティビティでジョブを再度選択します。
- UCMDB 10.01 から UCMDB 10.10 にアップグレードすると、すべてのポピュレーション・ジョブのステータスは、それらが次に実行されるときまでリセットされます。

Configuration Manager のアップグレード

- バージョン 10.10 へのアップグレード後は、CM Policy Adapter は自動的にアンデプロイされません。このアダプタをアンデプロイするには、UCMDB のパッケージ・マネージャを使用します。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』を参照してください。

- サーバ自動化の外部ポリシーは、バージョン 10.10 へのアップグレード後はアクティブ化されません。これらのポリシーをアクティブ化するには、JMX コンソールで **PolicyAnalysis** メソッドを実行して、**[refreshExternalPolicies]** をクリックします。
- アップグレードすると、カスタマイズしたトポロジ・レイアウトの定義 (レイヤのナンバリングを含む) はすべてリセットされます。

HP UCMDB

- パッケージ・マネージャを通してデプロイされる UCMDB Browser の動的ウィジェットによって、期待どおりに URM リソースが作成されることはありません。リソースを作成するには、モデリング・スタジオで動的ウィジェットを開き、保存します。
- ロール・マネージャの[一般アクション]タブで、動的ウィジェットと呼ばれるリソース作成アクションを使用して、モデリング・スタジオで (UCMDB Browser で使用するための) 動的ウィジェットを新規作成できるユーザを管理しなければならなくなりました。
- クライアント側を Java 7 にアップグレードすると、ダイアログ・ボックスのテキスト・フィールドはフォーカスされないことがあるため、ユーザは手動でこれらをクリックしてフォーカスする必要があります。この制限事項は、Internet Explorer および Firefox ブラウザに影響します。Google Chrome ブラウザには影響ありません。
- 高可用性環境での作業の場合、その他の UCMDB クラスタへのフェールオーバーが発生するときは、まず実行前に HP 統合サービスのデータをクリアしなければなりません。データを消去するには、`..\UCMDB\UCMDBServer\integrations\tools\clearProbeData.bat` を実行してください。
- 高可用性環境では、UCMDB アプリケーションと UCMDB サーバ間の通信が暗号化される際にフェールオーバーが発生すると、UCMDB アプリケーションからの再ログインが必要になります。この状況を回避するために、JMX 設定の **mam.common.secure.communication** で、UCMDB アプリケーションと UCMDB サーバ間の通信に関して暗号化をオフにします。
- Microsoft SQL Server とともにインストールされた UCMDB を使用する場合、UCMDB ではなくデータベースのデフォルト設定値から照合順序が取られます。データベース上の照合順序設定が UCMDB で定義された照合順序と一致することを確認する必要があります。
- [System Health] モジュールは UCMDB 10.10 では利用できません。
- 複数テナント環境の非管理ユーザがスナップショット比較レポートを作成すると、**[Size]** カラムに不正な値が表示されます。
- エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、CIT マネージャでは、いくつかの CIT とその接続関係を選択し [Export Map to Image with the Selected Object Only] オプションを選択すると、結果イメージに関係名が表示されなくなります。
- READ_ONLY_CLASS 修飾子が割り当てられている場合でも、CIT は編集できます。
- UCMDB Browser がマルチディスプレイ環境で実行されている場合には、画面キャプチャ・ツールではスクリーン・ショットをキャプチャできません。

- [ジョブリスト]ダイアログ・ボックス(スケジュールされたレポートまたはスナップショット)の[フィルタのクリア]ボタンは正しく機能しません。
- 影響分析マネージャで新しい影響ルールを作成したら、ウィザードの[影響ルールグループ]ページの[UCMDB]チェック・ボックスが選択されていない状態でも、作成した影響ルールをITユニバース・マネージャで実行できます。
- 「データベースに接続できませんでした」または「プールからの接続時のエラー」のエラー・メッセージがUCMDB error.log ファイル(C:\hp\UCMDB\UCMDBServer\runtime\log\ ディレクトリ内)に表示される場合は、以下を実行します。
 - a. **connection_pool.conf** ファイル(C:\hp\UCMDB\UCMDBServer\conf\ ディレクトリ内)を開きます。
 - b. 次のパラメータを追加またはコメントを解除します。

maxPoolSize=100

connection_pool.conf ファイルは、データベース接続プールに関連するプロパティを設定するものです。デフォルト設定のコンテンツは次の通りです。

```
# DB 接続プールのデフォルト設定。

#maxPoolSize=100

#minPoolSize=2

#maxWaitForConnectionSec=10

# 0=FAIL, 1=BLOCK, 2=GROW

#whenExhaustedAction=1
```

次の設定ができます。

- プール内の最大および最小接続数。
- **whenExhaustedAction** - 新しい接続を要求しプール内に空き接続がない場合に何をするか。有効な値は失敗、待機(BLOCK)、プールへの新規接続追加(GROW)のいずれかです。
- **maxWaitForConnectionSec** - 最大待機時間(**whenExhaustedAction=BLOCK**の場合)。
- ITユニバースでは、[Get Related]表示枠から[Virtual Compound]リンクを右クリックすると[複合パスを表示]オプションが表示されません。
- **dbtool consistency** ツールは、導入メッセージまたは警告メッセージなしで実行されます。例え

ば、ユーザに対してデータのバックアップやツール実行前のサーバ停止についてのヒントは提供されません。さらに、ツールの影響を受けるスキーマも表示されません。

- JavaScript を使用して選択した CI の表示ラベルとクラス名を取得するため、次の API が CI セレクタに追加されています。
 - String getSelectedCmdbObjectDisplayNames()
 - String getSelectedCmdbObjectClassNames()
- 新しい retrieveAllActiveUsers() メソッドが JMX コンソールの UCMDB-UI:name=UCMDB Integration セクションで利用可能になりました。これは UCMDB バージョン 8.0x で利用できた getAllActiveUsers() メソッドと同等のものです。
- HP Universal CMDB のオンライン・ドキュメントを Internet Explorer 8 で表示する場合、番号またはアルファベット順の一覧が文字化けする可能性があります。
- UCMDB_JavaAPI では、属性タイプが文字列または正数リストのタイプであった場合は XML 形式で文字列を返していた Attribute#getDefaultvalue() メソッドが文字列または整数オブジェクトのコレクションを返すようになりました。
- 汎用データベース・アダプタにいくつかのパフォーマンス改善がありました。
- セキュリティ・マネージャの[ビュー]タブで削除権限が設定されビューが削除された場合、そのビューの依存先クエリも削除されます。
- ルート・コンテキストを使用して UCMDB にアクセスすると、DocumentationのHome pageからHP Universal CMDB Discovery及びIntegration Content Guide PDFへのリンクが機能しない場合があります。デプロイしたコンテンツ・パックを含んでいた zip ファイルを展開して得られるPDFのリンクを使えば、正しくアクセスできます。
- 複数顧客環境 (SaaS など) で作業する際は、単一データベースおよびスキーマで作業する必要があります。
- 階層ツールの検索を使用する場合、ユーザが検索テキストを追加し[すべて折りたたみ]ボタンをクリックしても、何も起こらないかつリーの一部のみが折りたたまれます。
- UCMDB を Oracle データベースで実行するとき、ログに **ORA-00942:テーブルまたはビューが存在しないエラー**が表示された場合はデータベースが準備したステートメント・キャッシュが破損していることを意味します。準備したステートメント・キャッシュを削除するには、Oracle 管理者としてログインして次の SQL コマンドを実行してください。
alter system flush shared_pool
- SaaS などの複数顧客環境での作業では、マルチテナンシはサポートされません。
- <UCMDB ホーム>\conf\jetty.xml ファイルの sendServerVersion 設定が false に設定されている場合、Jetty のバージョンは HTTP 応答ヘッダに表示されません。
- インストール中にサーバ設定 ウィザードのオプションを選択するか、インストール後にインフラストラク

チャ設定 マネージャを使用して新しい検索エンジンの有効化を選択できます。UCMDB Browser の設定および検索エンジンの有効化・無効化の詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』内の UCMDB Browser について説明しているセクションを参照してください。

- オンライン・バージョンの開発者向け参考情報ガイドでは、Web Service API へのリンクは特定の API に直接リンクされるのではなく、Web Service API ホーム・ページにリンクされています。ホーム・ページから、検索機能または索引を使用して特定の API を見つけます。
- UCMDB Browser で新しい検索エンジンを使用する場合は、CMDB の CI 1,000 万個ごとに約 22GB のハード・ディスク・スペースを割り当てます。
- Universal Discovery Inventory Operating System および Universal Discovery Full Operating System のライセンスを持つクライアントは、UD インベントリのライセンス容量が完全に使用されている場合には、正しいステータスが「準拠」であっても UD フルライセンス容量が引き続き使用可能であるため、UCMDB UI で「非準拠」のステータス・メッセージを受け取ります。
- 複数テナント環境に UCMDB をインストールすると、ロール・マネージャの[ブラウザ CI アクセス制御]タブが表示されません。
- 次のユーザは、UCMDB により定義済みです。
 - **Admin** : UCMDB 管理者。
 - **Sysadmin** : システム管理者 (JMX コンソールにログインするために使用)。
 - **UISysadmin** : サーバ上でタスクを実行するために使用されます。

注: デフォルトのパスワードは変更することをお勧めします。詳細については、UCMDB UI または JMX でユーザ・パスワードを変更する方法を参照してください。

- 検索エンジンのインデックスに CI が追加されると、そのデータはインデックス付けされ、ファイル・システムの "search" フォルダ下に作成されるファイルに保存されます。デフォルトでは、各 CI はインデックス付けされますが(すべての **managed_object**)、各 CIT では検索エンジンによってインデックス付けの対象となる(このため検索可能となる)別の属性セットが定義されます。各 CI の平均のインデックス・サイズは、約 7KB です。インデクサや、各 CIT でインデックス付けされる属性のランク付け構成ファイルにおける各変更は、インデックス・ファイルの容量に影響を与えます。このような各属性によって、CI につき平均 512B が成立しており、属性に格納されるデータがはるかに大きくなる場合(特定の XML ファイルなど)、各 CI の追加容量が数 KB にまで達します。
- UCMDB Browser 3.X を UCMDB サーバに接続する前に動的ウィジェットを作成する場合、ウィジェットは作成されますが、エラー・メッセージが表示されます。このエラー・メッセージは無視します。

Configuration Manager

- Configuration Manager が高可用を実現するように構成された UCMDB サーバで動作するように設定するには、次の手順を実行します。

- a. 通常どおり、Configuration Manager バージョン 10.10 をインストールします。インストールはエラーで終了します(インストール・ログを確認して、2つの操作がエラーで終了していることを確認します)。
- b. (インストール・プロセスで開始された場合は) Configuration Manager サーバを停止します。
- c. UCMDB の JMX コンソールに**ライタ**として接続します。
- d. LW-SSO configuration JMX で、次の操作を呼び出します。
 - **setDomain** 内 :UCMDB ドメインを入力します。
 - **addTrustedDomains** 内 :Configuration Manager ドメインを入力します。
 - **setEnabledForUI** 内 :値を **true** に設定します。
- e. Settings services JMX で、次の操作を呼び出します。
 - **setGlobalSettingValue** 内 :キーを **ucmdb_browser.cm_configuration.enabled** に、値を **true** に設定します。
- f. High availability services JMX で、**restartCluster** 操作を使用してクラスタ全体を再起動します。変更内容を有効にするには、この手順を実行する必要があります。
- g. クラスタ内のすべての UCMDB サーバが起動したら、Configuration Manager サーバを再起動します。
- h. UCMDB で、**[管理]>[インフラストラクチャ設定 マネージャ]>[全般設定]**に移動して、Configuration Manager の URL を指定します。

注: UCMDB のロード・バランサが SSL で動作するように設定されている場合、Configuration Manager もそのように設定する必要があります。詳細については、『Hardening the HP Universal CMDB and Configuration Manager』の「SSL を使用して UCMDB の作業を行うための Configuration Manager の設定」を参照してください。

- UCMDB にポリシーをデプロイして、新しいカテゴリを割り当てると、ポリシーを再インポートする際にそのカテゴリは Configuration Manager に追加されません。
- UCMDB Browser の[Most Searched]タブと[Most Visited]タブは、Configuration Manager に埋め込まれたブラウザを使用するときには使用できません。
- 初めて Configuration Manager を開いて埋め込まれた UCMDB Browser にアクセスすると、環境ウィジェットのグラフィカル・モードが機能しないことがあります。この場合、UCMDB に埋め込まれた UCMDB Browser またはスタンドアロンの UCMDB Browser にアクセスしてから、Configuration Manager からアクセスします。これによって、欠落したリソースがデプロイされ、環境ウィジェットのグラフィカル・モードが Configuration Manager でアクセスされた際に正しく機能します。

- リバース・プロキシ設定で作業しており、Firefox または Google Chrome ブラウザを使用する場合、JMX コンソールがHTML コードとして開きます。JMX コンソールを正しく表示するには、Internet Explorer を使用します。
- サーバ自動化の外部ポリシーは、バージョン 10.10 へのアップグレード後はアクティブ化されません。これらのポリシーをアクティブ化するには、JMX コンソールで **PolicyAnalysis** メソッドを実行して、**[refreshExternalPolicies]** をクリックします。
- 新しいビューを追加する際、**[更新タイミング]** を **[ビューの更新時]** に設定すると、自動的に **[1 日に 1 回]** として保存されます。**[更新タイミング]** を別の値に設定して、保存し直します。
- ログイン・ユーザの名前が **[ホーム]** ページに表示されない場合、そのユーザの UCMDB にロケールが定義されていることを確認してから Configuration Manager をログアウトし、再度ログインしてください。
- ポリシー・カテゴリ属性を使用してポリシー CIT をフィルタリングすることはできません。
- Configuration Manager は、SiteMinder Web Agent が IIS Web サーバで作業するよう設定されている場合には SiteMinder との統合をサポートしません。
- SiteMinder 認証を使用している場合は、Configuration Manager の特定ビューにポリシーを割り当てられません。
- コマンド・ライン importCS ユーティリティを使用してインポートできるのは、コマンド・ライン exportCS ユーティリティを使用してエクスポートされたファイルのみです。
- UCMDB サーバと Configuration Manager のサーバの時間設定は、秒単位まで同期されていなければなりません。
- UCMDB サーバとサービス・マネージャ・サーバの時間設定は同期されていなければなりません。
- HP Operations Orchestration 側の SSL 証明書が無効または期限切れの場合は、フローは **[自動化管理]** モジュールのフロー・ツリーに表示されません。
- 特定の CI に複数の Composition 関係がある場合に composition CI のいずれかを承認しようとすると、特定 CI を含むその他すべての composition CI を承認するよう求められる場合があります。
- サマリーの表示レポートを非ラテン語系言語で PDF 形式でエクスポートする場合は、テーブル見出しの語は削除される場合があります。
- OO と UCMDB 統合のパスワードはデータベースで暗号化されるようになりました。あるマシンから構成セットをエクスポートし、別のマシンにインポートする場合は、必ず両方のマシンに同じ暗号化キーを使用してください。ソース・インストールからターゲット・インストールへと次の情報をコピーします。
 - **encryption.properties** ファイル(場所：**<Configuration Manager のインストール・ディレクトリ>/conf** フォルダ)。

- セキュリティ・ディレクトリのコンテンツ(場所: <Configuration Manager のインストール・ディレクトリ>/security フォルダ)。

パスワード暗号化ユーティリティを使用して、**database.properties** ファイルの db.password キーを暗号化してください。Configuration Manager の[設定]モジュールで、古い構成セットのパスワードを再入力してから構成セットを保存およびアクティブ化します。

両方のマシンでキーが同一でない場合は、構成セットをインポートした後に、Configuration Manager の[設定]モジュールで、インポートした構成セットのパスワードを再入力してから構成セットを保存およびアクティブ化しなければなりません。

- Configuration Manager に追加した HP Operations Orchestration バージョン 7.51 からのフローを使用した場合は以下の問題が発生します。
 - 自動化を設定すると、[**Single Value - Selection Lists**]または[**List of Values - Selection List**]パラメータ・タイプを含がフローに含まれている場合は自動化リストにフローを追加できません。
 - 自動化を実行しようとしたときにパラメータ・タイプが[**List of Values**]の場合は、実行は失敗します。
- [Analysis Scope]に含まれる類似コンポーネント CI が多すぎる場合は[Environment Segmentation Analysis]モジュールのセグメント生成が失敗する場合があります(設定した類似レベルに基づく)。この問題を解決するには、次のいずれかの方法を使用します。
 - 範囲から CI を除外する
 - 類似レベルを上げる
- UCMDB の CI に行われた変更が Configuration Manager に反映されない場合があります。UCMDB エラー・ログに次のメッセージがある場合は、初期化パターンの限度に達していることを意味します。そのメッセージは、**最大初期化パターンの制限 [3000] を超過しています!!!!** です。
- [**System > Settings**]モジュールの[[Topology Layout](#)]では、管理対象属性はレイアウト例外の場合にのみ入力可能です。
- リンクが承認され認証操作が正常に行われた場合、希にリンクが非承認と表示される場合があります。CI を再承認しようとするとき認証プレビューのダイアログが内容なしで表示される場合があります。

回避策 : 以下のように JMX を使用します。

- ビューを分析しコンポジット・リンク履歴の有効性を確認するには、次の手順を実行します。
 - JMX へのアクセス: **OfflineAnalysisJMX**
 - 操作の呼び出し: **checkViolatingLinks**
- すべてのビューを分析し不正なコンポジット・リンクを修正するには、次の手順を実行します。

- JMX へのアクセス: **OfflineAnalysisJMX**
- 操作の呼び出し: **fixViolatingLinks**

JMX へのアクセスの詳細については、『HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド』を参照してください。

コンテンツ・パック

注意事項

- UCMDB 10.01 では、Universal Discovery エージェントを Ubuntu Linux Server/Desktop のバージョン 10 および 11 にインストールできます。
- **globalSettings.xml** 構成ファイルで、`<parameter>` および `<fallbackExceptionList>` 要素が **jdbcPreUrls** パラメータに追加されました(『ディスカバリおよび統合コンテンツ・ガイド』「全般的な参照情報」にある「Content Pack の構成ファイル」の章を参照)。各 `<parameter>` 要素には、1 つの `name` 属性と、1 つ以上の `<value>` タグが含まれます。各 `<parameter>` は、“%%[parameter name]%%” という形式を使用することにより、Oracle URL テンプレートで使用できます(例：`%%connect_data%%`)。

`<parameter>` に複数の `<value>` タグが含まれている場合、解析エンジンによってテンプレート文字列に可能な値の順列がすべて生成され、クライアントによってこれらの順列のそれぞれでデータベース・サーバへの接続が試行されます。

接続中にエラーが発生することがあるため、エラー発生時にどのエラーを無視するかを `<fallbackExceptionList>` 要素で指定します。このように指定したエラーがエンジンで無視された場合、テンプレート文字列における別の値の順列を使用した接続が試行されます。`<fallbackExceptionList>` で指定していないエラーが発生した場合、エンジンでは別の順列は試行されず、ジョブは失敗してエラー・メッセージが表示されます。

- すべての TCP Ports ジョブ(TCP Ports, Databases TCP Ports, SAP TCP Ports, および JEE TCP Ports)で、ポート名が(ジョブの **ports** または **UDPports** パラメータにおいて)自身に割り当てられており、**portNumberToPortName.xml** 構成ファイルで「検出可能」(**isDiscovered=1**)としてマークされているポートのみが検出されます。
- IPv6 をサポートしているすべてのジョブは、次のように移動することで JMX コンソールにリストできます。

```
UCMDB JMX > UCMDB:service=Discovery Manager >
getIPv6SupportedDiscoveryJobNames
```

制限事項

- JDBC データソースは、Weblogic Admin Console においてアクティブ化されていない場合は検出できません。

モデリング

- フローが2つのコンタクト・ノード IpAddress と別のものとのマッピングで IpAddress 用にマッピングされた場合、IpAddress フローはフォーカスを当てても UCMDB ブラウザで確認できません。
- モデリング・スタジオでは、同じクエリに基づいて複数のパターン・ベース・モデルを作成することはできません。新規作成すると、既存のものが上書きされます。
- **[Must]**および**[加重]**フィールドがUCMDB スタンドアロンのITユニバース・マネージャの**[New CI]**と**[Insert Relationship]**のダイアログ・ボックスに表示されますが、これらはHP Business Service Managementにのみ関連するものです。ドキュメント内のこれらのフィールドについての説明は無視してください。
- フォントサイズが14ポイント以下の場合、廃止 CI タイプは取り消し線付きフォントでは表示されません。
- **[レイアウト プロパティ]**ダイアログ・ボックスの**[ルーティング]**タブ(**[レイアウト]**>**[レイアウト プロパティ]**を選択してアクセス)ではすべてのオプションが利用可能なように見えますが、実際にマップのレイアウトで使用するには一部のみです。
- エクスポートのCIインスタンスが選択済みTQLに対して見つからない場合は、ページあたり手動で最大150,000のCIを入力できます。
- モデリング・スタジオでは、表示またはクエリのために無効なXMLファイルをインポートしたときに情報エラー・メッセージは表示されません。
- 影響分析マネージャでは、サブグラフを定義した影響ルールを保存しようとする時、問題に関する詳細情報のない汎用エラー・メッセージが表示されます。
- **[画面キャプチャツールを実行]**を使用して半透明のグラフィックを印刷すると、品質結果が低下します。
- **[レイアウト プロパティ]**ダイアログ・ボックスの**[階層的]**タブ(**[レイアウト]**>**[レイアウト プロパティ]**からアクセス)では、**[Minimum Backward Edges]**および**[Optimize For Feedback Flow]**のオプションは正しく動作しません。
- 新しい表示システムは現在、ルール・ベースのテンプレートに基づくITユニバース・マネージャ経由の結果表示をサポートしていません。
- CITインスタンスをネットワーク・ポート番号プロパティとともに表示すると、カンマが不適切な場合でもネットワーク・ポート番号はカンマとともに表示されます。
- 計算された関係がエンリッチメント・マネージャまたは影響分析マネージャで選択されると、**[関係のプロパティ]**ダイアログ・ボックスの**[修飾子]**タブが機能しません(選択した修飾子は選択した関係に適用されません)。
- モデリング・スタジオで新しいTQLクエリに基づいてビューを作成する際、いずれかのクエリ・ノードに条件を追加してビューを保存し、ウィンドウを閉じずにビュー・トポロジを修正するとエラーが発生し

ます。このエラーを回避するには、条件を追加してビューを保存した後にウィンドウを閉じてから、再度ビューを開いてトポロジに変更を行います。

- [要素インスタンスの表示]ダイアログ・ボックスにはフェデレート CI の外部アイコンは表示されません。
- モデリング・スタジオのパターン・ビュー・エディタ[階層]表示枠には、TQL クエリのフェデレート CIT の外部アイコンは表示されません。
- バイト型の定義済みの属性を編集するとエラーが生成されます。例えば、**Attachment** CI の **AttachmentContent** 属性を編集するとエラーが発生します。ユーザ作成属性は安全に編集できます。
- モデリング・スタジオで[パターンベースモデルスケジューラ]ダイアログ・ボックスを使用して開始日時とパターンベースモデル更新の繰り返し間隔を設定することができます。[日次パターンベースモデルスケジューラの更新]を選択し、繰り返し間隔を時間単位で設定します。[詳細パターンベースモデルスケジューラの更新]を選択し、cron 式で繰り返し間隔を設定します。
- マップ全体が表示されているときは、トポロジ・マップのズーム・アウト機能は表示されません。
- トポロジ・レポートに追加する階層レイヤが多すぎると、レポートを PDF にエクスポートする際にエラーが発生することがあります。

Universal Discovery

- ドキュメントは Universal Discovery Web サービスへのアクセス権限の最新の変更で更新されていません。いずれかのメソッドにアクセスするため、ログインしたユーザには[ディスカバリおよび統合を**実行**]の一般アクション権限があります。
- Data Flow Probe をセットアップする際に CSV ファイルから不正な範囲をインポートした場合(開始 IP が終了 IP よりも高いなど)、エラーは表示されません。無効な範囲を手動で修正する必要があります。
- Data Flow Probe に接続しようとする時、NullPointerException (Error 302) 例外がスローされる場合があります。この例外の原因となり得る問題は数多くあります。最初に Data Flow Probe 設定に **root_context** が含まれていることを確認してください。この例外が依然として発生する場合は、HP サポートにお問い合わせください。
- Universal Discovery エージェントを非ルート・ユーザで Solaris プラットフォームにインストールするとき、インストールが失敗した場合には、考えられる理由として、**/etc/passwd** ファイルの HOME フィールドに含まれるパスが存在しない、ということが挙げられます。

回避策 :次のいずれかを実行します。

- **/etc/passwd** ファイルで、HOME フィールドに新しいパスを入力します。
- HOME フィールドの値に一致するディレクトリを作成します。

- Data Flow Probe を Windows 2008 R2 マシンにインストールする場合は、次の手順を実行します。
 - a. **C:\hp\UCMDB\DataFlowProbe\bin** フォルダで **wrapper.exe** を探します。
 - b. [**wrapper.exe**] を右クリックし、[**プロパティ**] を選択する。
 - c. [互換性] タブで、[**Run this program as administrator**] を選択します。
- マルチテナンシ・モードで作業する際は、プローブ・クラスタ内のすべての Data Flow Probe に同じデフォルト・テナントが定義されていることがベスト・プラクティスとなります。Data Flow Probe にそれぞれ異なるデフォルト・テナントが定義されている状況で範囲の再分散が生じると、検出済み CI のテナントは変更されません。
- IPv6 のみのネットワーク環境にいる場合には、次の制限があります。
 - Microsoft の既知の制限により、WMI は Windows 2003 を実行している IPv6 対応デバイスには接続できません。
 - Microsoft の既知の制限により、NTCMD は Windows XP を実行している IPv6 対応デバイスには接続できません。
 - Microsoft の既知の制限により、NTCMD は Windows 2003 を実行している IPv6 対応デバイスには接続できません。回避策としては、<http://support.microsoft.com/kb/281308> を参照してください。
- 次のシナリオについて考えます。
 - a. スキャナ・スケジューラがインストールされています。
 - b. 64 ビット版のスキャナ(Windows)が、スキャン・ファイルを HTTPS を介してリモート・サーバに保存するように設定されています。
 - c. スキャナ・スケジューラによってスキャナが実行されます。

このシナリオでは、スキャン・ファイルは正常にアップロードされません。回避策としては、32 ビット版のスキャナを使用するか、スキャン・ファイルを Data Flow Probe サーバに手動でコピーします。

- インベントリ・ツールのヘルプ・ドキュメントを含む CHM ドキュメントは、利用できなくなりました。ただし、PDF は引き続き利用可能で、インベントリ・ツールとともにインストールされます。

注: この PDF ドキュメントは、これまで「スキャン・データ・アナリシス」と呼ばれていました。

- IPv6 アドレスの表記は、RFC 2373 に準拠します。
- IP Mac Harvesting by SNMP ジョブは、RFC 1213, 2465, および 4293 に準拠します。

インテグレーション

- EMC Control Center (ECC) のデータベースにはストレージ・アレイにアタッチされた FCHBA (ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプタ) の WWN (World Wide Name) 情報は含まれていません。したがって、このディスカバリでは FCHBA CI の WWN 属性に HBA の ECC ID (ECC 内) が入力されます。このスクリプトでは、こうした FCHBA CI それぞれの `data_note` 属性に、ECC には WWN 情報がなくこの CI は重複が可能であるという注記も付く。
- Service Manager の統合中にポピュレーション・ジョブが失敗し、UCMDB のプローブ・ログで次のエラーが表示された場合は、次の手順を実行します。「`sm_id` は空の値にマップされています」
 - a. SM で、CI 名に含まれている次の文字を削除します。
 - “(引用符)
 - 改行
 - `"`, `<`, `>`, `&` などの HTML タグ
 - b. ポピュレートを再度行います。
- Service Manager の統合中にフル・ポピュレーションで RunningSoftware CI に関するエラーが返された場合に **Run Job - Synchronize Changes** を実行すると、フル・ポピュレーションに続くこのジョブも失敗します。ポピュレーション・ジョブの実行前に、RunningSoftware CI とそれらの関係の整合性を確実なものにすることをお勧めします。次の手順を実行して、CI を確認します。
 - a. Service Manager で、**[カスタマイズ -> スクリプト・ライブラリ]** に移動し、新しいスクリプトを追加します。
 - b. JavaScript コードを新しいスクリプトの下部に貼り付け、**[実行]** をクリックします。
 - c. メッセージが表示され、失敗した RunningSoftware CI が示されます。それらの CI について、データを修正します。
 - d. UCMDB で、フル・ポピュレーション・ジョブを再度実行します。

JavaScript コード

```
printInvaildRunningSoftware();

/**このシンプルなスクリプトは、無効な実行中ソフト ウェア・レコードを検出する目的で使用されま
す

。ノードに対する実行中ソフト ウェアの構成のみがサポートされます。
こまでは 00TB。関係の伴わない実行中ソフト ウェアがリストされます。
存在しないデバイスを伴う実行中ソフト ウェアがリストされます。

**/
```

```
function printInvaieldRunningSoftware() {
    var device = new SCFile("device");
    var rc = device.doSelect("type=\"runningsoftware\" and istatus~=\"retired\"");
    var count=0;
    while (rc == RC_SUCCESS) {
        //実行中ソフトウエアの名前に基づき、関係を選択します
        var relationship = new SCFile("cirelationship1to1");
        var crrc = relationship.doSelect("downstreamci.logical.name = \"\" + device.logical_name + \"\" and upstreamci.type=\"computer\" and downstreamci.type=\"runningsoftware\" and relationship.subtype=\"Composition\" and status~=\"Removed\"");
        //実行中ソフトウエアの最初のアップストリーム CI が検出されました
        if (crrc == RC_SUCCESS) {
            var nodeFound = false;
            while (crrc == RC_SUCCESS) {
                //存在するコンピュータを選択します
                var nodeDevice = new SCFile("device");
                var noderc = nodeDevice.doSelect("logical.name = \"\" + relationship.upstreamci_logical_name + \"\" and istatus~=\"retired\"");
                if (noderc == RC_SUCCESS) {
                    nodeFound = true;
                    break;
                }
                crrc=nodeDevice.getNext();
            }
            if (nodeFound) {
                //print("qualified " + device.logical_name + " with CI " + nodeDevice.logical_name);
            }
            else {
                count++;
            }
        }
    }
}
```

```

        print("Error:missing exist upstream CI:" + relationship.u
        pstreamci_logical_name + " for runningsoftware:"+device.l
        ogical_name);
    }
}
else {
    count++;
    print("Error:no qualified relationship for runningsoftware:"
    + device.logical_name);
}
rc = device.getNext();
}
print("Done:"+count+" errors found");
}

```

連携

- 外部データ・ソース(連携)からデータを取得する可能性のあるクエリー・ノードのプロパティ状態を設定し、状態がいずれのデータ・ソースからもサポートされていない場合は、TQL クエリー計算が失敗します。
- フェデレート・ノードは、データ・ソースが外部にしかない場合でもローカルCMDBからの不正な「候補値」を表示する場合があります。
- 統合ポイントがITユニバース・マネージャのCIセレクトラでクエリーされているCITをサポートしており、この統合ポイントが表示ラベル上の条件をサポートしていなければ、結果は表示されません。

レポート

- レポート内のハイパーリンクを有効化するには、[エクスポートされたレポートのリンクを有効化]のインフラストラクチャ設定を[TRUE]に設定します。エクスポートされたレポートのアイコンを表示するには、[エクスポートされたレポートのアイコンを表示]のインフラストラクチャ設定を[TRUE]に設定します。
- [Configuration Manager ポリシー レポート]はバージョン 10.10 では利用できません。

LW-SSO

LW-SSO の作業をする際のセキュリティの詳細については、HP Universal CMDB and Configuration Manager Hardening Guide の「Lightweight シングル・サインオン(LW-SSO) 認証の全般的な参照情報」を参照してください。

LDAP

- ユーザ・インターフェース経由での認証に加えて、API を使用した認証がLDAP ユーザ向けにサポートされています。
- LDAP が有効化された Web サービスを使用すると、Web サービスはデフォルトで LDAP 認証フローを最初に通過するため、パフォーマンスに影響を及ぼす場合があります。

多言語サポート

- 互換性のため、統合ポイント名およびデータ・フロー管理ジョブ名に使用できるのは英数字および下線(_)のみです。
- 多くの UCMDB パラメータの最大文字列長はバイト単位で定義・記載されていますので、マルチバイト文字や言語固有文字を使用する場合に実際に許容される文字数はさらに少なくなります。
- エンリッチメント・マネージャでは、日本語、中国語、韓国語バージョンでは[Node Definition]ダイアログ・ボックスの必須属性が太字で表記されません。
- UCMDB インストール・パスまたはその他のプロパティやアダプタ・ファイルのパスには英語以外の文字を使用しないでください。
- ユーザ・パスワードにマルチバイト文字を使用しないでください。
- スケジュールされたジョブのアクション名はローカライズ済みの名前(使用ロケールに基づく)で保存されますが、これらの名前はロケールへの依存性なく表示されます。これらのアクション名は、ユーザにより修正が可能であるため、ユーザ固有のものとなります。
- マルチバイト文字を使用して電子メール設定を行うことができるようになりました。これらの設定は、インフラストラクチャ設定マネージャに移動されました。
- HP Universal CMDB では、サロゲート・ペアおよび結合文字は完全にはサポートされていません。
- 言語パックをインストールする必要はありません。初回リリースに含まれている翻訳済み言語はすべて、HP Universal CMDB の多言語ユーザ・インターフェース(MLU)に統合されています。
- Web ブラウザの言語が変更されても、データは入力された言語で残されます。ローカル・マシンで Web ブラウザの言語を変更しても、データ入力定義およびデータ入力設定の言語は変更されません。
- 新しいユーザの名前に 20 文字より多い東アジア文字が含まれていると、[ユーザとロール]で新しいユーザを作成できません。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』のユーザおよびロールを説明しているセクションを参照してください。
- 次のページは、英語でのみ表示されます。ほかの言語には翻訳されていません。

- [HP Universal CMDB server status]HTML ページ
- [JMX コンソール]ページ
- [API 接続テスト]ページ
- UCMDB MLU がサポートしていない言語をクライアント・マシンで選択すると、HP Universal CMDB は英語で表示されます。
- [名前], [表示名], [詳細]などのフィールドの中の複数バイト文字の使用時は、必ず文字数をフィールドのバイト制限に準拠させます。たとえば、1バイト文字が100文字という制限がフィールドにある場合、それぞれ3バイトのマルチバイト文字を最大33文字使用できます。
- SAI Editor, Viewer, および Analysis Workbench が含まれるインベントリ・ツールは、英語でのみ使用できます。

修正された UCMDB 10.10 の欠陥

次の表に、HP UCMDB 10.10 で修正された欠陥を示します。

CR グローバル ID	説明
QCCR1H39174	[CMDB から削除]オプションが有効であっても、対応するアイコンがツールバーで無効として表示されていた問題を修正しました。
QCCR1H63971	エンリッチメントの名前の末尾にスペースがあると、エンリッチメントが壊れる問題を修正しました。
QCCR1H64958	MercuryAS で大量のメモリを消費しているためにゲートウェイ・サーバがクラッシュすることがある問題を修正しました。
QCCR1H66668	汎用ブレイクダウン・レポートのドリルダウンでインスタンスの数に誤りが生じる問題を修正しました。
QCCR1H66895	UCMDB ジョブ・スケジューラで非アクティブなジョブが編集後にアクティブ化される問題を修正しました。
QCCR1H74636	ID マップのヒューズ・エラーを、ヒューズの値を増やすことなく調整プロセスで回避できるようになりました。
QCCR1H77748	JMX コンソールで不正なライセンス概要が表示される問題を修正しました。
QCCR1H81574	UI が無効なレイアウトで tempForLayout TQL を実行しようとする問題を修正しました。
QCCR1H81704	モデル更新において変更者([updated_by]属性)のサイズに関して検証が行われない問題を修正しました。
QCCR1H81856	UCMDB において多数のクエリの実行が開始されるとメモリが不足する問題を修正しました。
QCCR1H82076	UCMDB Browser で名前に "-"(ダッシュ)を含む CI が検索されない問題を修正しました。
QCCR1H82304	分散モードにおいて、(GW からの)RTSM が無効化されたポートのチェックを認識するようになりました。
QCCR1H82432	モデリング・スタジオの全般的なアプレットのパフォーマンス改善が実装されました。
QCCR1H82867	UCMDB 10.01 へのアップグレード後に発生する致命的エラーによって UCMDB に入ることができない問題を修正しました。
QCCR1H83029	不正なスキャナバージョンが UD 10 にエクスポートされる問題を修正しました。
QCCR1H83128	WebSeal でリバース・プロキシを使用できない問題を修正しました。

CR グローバル ID	説明
QCCR1H83263	CA 証明書の変更後にサーバの起動に失敗する問題を修正しました。
QCCR1H83325	PBV 優先度の変更が機能しない問題を修正しました。
QCCR1H83326	JMX を通して仮想および singleRef の TQL を無効化できない問題を修正しました。
QCCR1H83949	IT ユニバース・マネージャでの作業時に UI が 20 秒ごとに更新される問題を修正しました。
QCCR1H83983	統合サービスが高可用性環境で停止または実行されている場合に関して、CM 文書が修正されました。
QCCR1H84298	列挙タイプが UCMDB のメジャー・アップグレードの実行時に正しく更新されない問題を修正しました。
QCCR1H84497	すべてのプローブが接続されているときに UCMDB Browser 2.1 のパフォーマンスが極めて低くなる問題を修正しました。
QCCR1H85259	スケジュールされたレポートのデータ形式が不正になる問題を修正しました。
QCCR1H85419	Virtual Compound がパースペクティブで動作しない問題を修正しました。
QCCR1H85580	負荷分散を使用する場合に UCMDB 使用率レポートに各 UCMDB サーバに接続しているすべてのユーザが表示されない問題を修正しました。
QCCR1H86160	BSM RTSM への SHO 接続がある場合でルート・コンテキストが変更されたときに UCMDB Web サービスが動作しない問題を修正しました。
QCCR1H86202	次のエラー・メッセージが表示される問題を修正しました:「UCMDB Browser が UCMDB サーバに接続されていません」。
QCCR1H86613	CM のハードウェアおよびソフトウェア要件が、UCMDB サポート・マトリクス・ドキュメントに追加されました。

修正された Content Pack 13.00 の欠陥

次の表に、HP UCMDB Content Pack 13.00 で修正された欠陥を示します。

CR グローバル ID	説明
QCCR1H77935	Content Pack のインストールに関するドキュメントの誤りを修正しました。
QCCR1H78810	UD スキャナで不正なバージョンのインストール済み SW CI が検出される問題を修正しました。
QCCR1H79042	EView Connection ジョブでホーム・リストの最初の IP が常にメイン IP として取得される問題を修正しました。
QCCR1H80870	BMC Atrium とのデータ・プッシュ統合時に、エラーが発生することなく関係が Atrium に追加されるようになりました。
QCCR1H83948	SNMPV3 を使用して、Layer2 Topology VLAN-based by SNMP ジョブを実行できます。
QCCR1H84802	インストール・スクリプトにエージェント再起動のコードが含まれるようになりました。
QCCR1H85797	Excel ワークブックからデータをインポートする手順で、古い設定手順が削除されました。
QCCR1H86220	名前 RoutingDomain が UcldbRoutingDomain に変更され、属性の説明に次が追加されました。"UcldbRoutingDomain should not be confused with "routing domain" definition given in IETF RFC 1237"。
QCCR1H86252	Layer2 Topology VLAN-based by SNMP ジョブで Cisco 非対応デバイス上の非デフォルト VLAN のトポロジが検出されない問題を修正しました。